

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	大学教育の現状とFD活動の意義		
【領域】	1. 大学コミュニティについての理解 5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発		
形式	講義と演習(対面)		
時間	90分		
	実施形態	開催日時	学外公開の有無
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	4月27日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室	<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	安岡 高志(高等教育研究)		
到達目標	1. FDの概念、構造、制度基盤についての基礎知識を得る。(5-1-1対応) 2. 教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。(5-1-2対応) 3. 大学のDPや教育理念(自分流)、教育指針(実学・国際性・開放性)に基づいた教育活動に貢献できる。(5-2-3対応)		
事前学習課題	特になし		
講座の流れ		分	
セッション1	【全体活動】 ①受講生と担当教員の自己紹介 ②新任教員研修プログラム、ブラッシュアッププログラムの概要 ・本学の新任教員研修プログラム及びブラッシュアッププログラムの目的、および修了証明証・出席証明証の発行までの流れについて説明します。	40	
セッション2	【全体活動】 ③大学教育の現状とFDの目的 ・大学をめぐる現状と課題、授業改善を行う意義について解説し、CTLが提供するFDサービスについて情報提供を行います。	50	
事後学習課題	・振り返りシートの記入と事後アンケートの入力		
参考文献	1. 佐藤浩章・中井俊樹・小島佐恵子・城間祥子・杉谷祐美子(編)(2016)大学のFD Q&A 玉川大学出版部.		

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	シラバスの作成と授業の到達目標の書き方	
【領域】	2. 授業のデザイン(目標設定、実施計画、成績評価)	
形式	講義と演習(対面)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	5月11日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室
		<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	駒崎 知永理(高等教育研究)	
到達目標	1. シラバスの多様な役割について説明することができる 2. 「授業の到達目標」を適切に書くことができる 3. 「授業の概要」を学生の立場になって点検し、改善することができる	
事前学習課題	・これまでに自身で作成したシラバスがあれば1~2件持参してください。	
講座の流れ		分
セッション1	①シラバスの役割及び書き方についての概説(共同化) ・シラバスがなぜ必要かを理解するために、シラバスの多様な役割について説明します。 ・シラバスの書き方(特に、「授業の到達目標」と「授業の概要」)について説明します。	30
セッション2	②個人ワーク(表出化) ・自身で作成したシラバスの点検を行い、必要に応じて改訂を行います。	10
セッション3	③改訂箇所の共有と意見交換(連結化) ・改訂箇所をグループ内で発表し、意見交換を行います。得られた気づきは、全体に共有していただきます。	45
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの記入(内面化) 2. 講座での学びを活かし、今年度のシラバスの改善点を研修総括レポートに記述する(内面化)	5
参考文献	1. 栗田佳代子、中村長史編『学びを促すシラバス：コースデザインの作法と事例』、河合出版(2023) 2. 佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部(2010) 3. 中島英博編『授業設計』、玉川大学出版部(2016)	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	ルーブリックについて知る(一般教員向け)	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	講義と演習(対面)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	5月19日(火) 18:15~19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室
		<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	上田 勇仁(高等教育研究)	
到達目標	1. 多様な評価の方法とその特徴について理解できる 2. 学習目標に合わせて、成績評価の基準と方法、成績評価のフィードバック等を適切にデザインできる。	
事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを持参下さい。 ・ルーブリックを活用したいと考えている授業のシラバス 1~2 件を持参してください。 ・これまでに自身で作成したルーブリックがあれば持参してください。 	
講座の流れ		分
セッション1	①ルーブリック活用経験の情報共有(共同化) ・自身がこれまでに行った、ルーブリックを活用した取り組みについて情報共有を行います。 ②ルーブリックについて知る(共同化) ・ルーブリックについて本学の「ルーブリック作成ガイド」をもとに作成方法や作成上の留意点等について概説します。	35
セッション2	①ルーブリック作成のミニワーク(表出化) ・自身の授業について用いるルーブリックを作成します。	30
セッション3	①グループディスカッション(連結化) ・作成したルーブリックについて意見交換を行います。	20
事後学習課題	・振り返りシートの作成と事後アンケートの入力(内面化) ・作成したルーブリックを実際に授業で使用した結果を、総括レポートにまとめてみましょう。	5
参考文献	1. ダネル・スティーブンス & アントニア・レビ著, 佐藤浩章監訳, 井上敏憲・俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』, 玉川大学出版部(2014) 2. 沖裕貴「大学におけるルーブリック評価導入の実際— 公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指して—」, 立命館高等教育研究 14 号, 2014, pp.71-90	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	生成AIをどう授業で使うかを考える	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	(集合) 講義と演習	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	5月26日(火) 16:30~18:00 8号館TNec811教室
		<input type="checkbox"/> 学外公開有 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開無
講師	宮原 俊之(教育方法研究支援)	
到達目標	生成AIに関する他者の実践や課題を踏まえ、自らの授業における活用可能性とリスクを整理し、適切な活用方針を説明するとともに、具体的な授業改善アクションを計画できる。	
事前学習課題	1. 本研修では、生成AIの活用について意見交換を行います。ご参加にあたり、以下について軽く思い浮かべておいてください(書き出し不要です)。 <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIについて気になっていること ・授業で「使えそう」「不安」と感じた場面 2. 簡単な事前アンケート(1問)にご協力ください。	
講座の流れ		分
形式	座談会形式で実施しますが、人数が多い場合は複数のグループに分かれます。	
セッション1	①現在の状況を共有する(共有化・連結化フェーズ) ・生成AIについての関心事・不安事・課題だと考えていることについて共有します。 ・現在、授業において(すべてのプロセスが対象)生成AIを活用している場合は、その内容も共有します。	30
セッション2	②活用を考える(表出化・連結化フェーズ) ・他者の現状を受けて、各人の授業において(すべてのプロセスが対象)、どのような使い方がありそうか、個人で考えます。 15分 ・小グループ内(もしくはお隣の方)で共有し、意見交換を行います。 10分	25
セッション3	③つき合い方を考える(表出化・連結化フェーズ) ・気づきを全体で共有し、どこまで使えるか、どのように使うべきかなどについて考えます。 25分 ・すぐに試してみたいことについて、個人でまとめます。 5分 ・質疑応答 5分	35
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。(内面化) ※事後アンケートは、研修当日を含めた3日以内にご回答ください。 2. 講座での学びを活かし授業設計について見直し行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)。	
参考文献	随時更新します。	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	大学授業の成績評価について考える		
【領域】	4. 成績の評価、フィードバック		
形式	講義と演習(対面)		
時間	90分		
	実施形態	開催日時	学外公開の有無
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	6月22日(月) 18:15~19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室	<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	上田 勇仁(高等教育研究)		
到達目標	1.成績評価の意義と目的、方法と特徴について説明できる 2.学習目標に合わせて、成績評価の基準と方法、成績評価のフィードバック等を適切にデザインできる。		
事前学習課題	1. 自身の授業シラバスを1~2件持参する。 (※授業を担当していない方は、自大学内で関心のある科目のシラバスでも結構です。)		
講座の流れ		分	
セッション1	①グループでの意見交換(共同化) 成績評価で困っていることや疑問に思うことなどを共有します。 ②成績評価の基本(共同化) 「厳格な成績評価」の意味、成績評価の方法や到達目標と成績評価の一貫性等について、講師より基礎的な知識提供を行います	40	
セッション2	③個人ワーク(成績評価手段と評価割合の見直し、共同化・表出化) ワークシートを使って持参した評価手段と評価割合(手順1)の見直しを行います。	20	
セッション3	④グループディスカッション(表出化・連結化) ・作成したワークシートを紹介しあい、今後の改善方法などについて意見交換を行います。 ⑤質疑応答	25	
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの記入(内面化) 2. 講座での学びを活かし、今年度の授業で行なった成績評価の方法や改善点を研修総括レポートに記述する(内面化)	5	
参考文献	1. ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ著、佐藤浩章監訳、井上敏憲、俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版 2. 溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』、東信堂、2014 3. 中島英博ほか『学習評価(シリーズ 大学の教授法4)』、玉川大学出版、2018		

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	授業に付随する著作権等の処理(Q&Aに基づく検討)		
【領域】	3. 教育の実践		
形式	講義とディスカッション(Zoom)		
時間	90分		
	実施形態	開催日時	学外公開の有無
	<input type="checkbox"/> 集合 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	6月24日(水) 18:15~19:45(接続は18:10)	<input type="checkbox"/> 学外公開有 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開無
講師	木村 友久(共通教育センター)		
到達目標	1. 異時公衆送信を使い、学習を促す授業の準備、運営ができる。(3-2-1対応) 2. 改正著作権法35条の理解を前提に、学生の反応や学習段階等を考慮した教材開発ができる。(3-1-2対応)		
事前学習課題	著作権法の知識を確認したい方は https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/94283401_01.pdf からテキストを取得してください。 ある程度理解されている方は、ダウンロード後に目次のみ確認してください。		
講座の流れ			分
セッション1 (Zoom)	* 18:10にZoomに接続してください。 ①本講座の全体像の説明と意義。著作権法35条の理解に最低限必要な著作権法の知識の確認。(共同化) ②令和3年度版ガイドライン公開時点以降の全体的な状況説明。	20	
セッション2 (Zoom)	③受講者から寄せられたリスク事例・質問・疑問点について、一問一答形式で回答します。(表出化、連結化) ④木村の回答を元に、授業実践過程における著作権等処理リスク軽減方策を議論します。(表出化、連結化)	45	
セッション3 (Zoom)	⑤セッション2で扱ったリスク以外で、今後発生が見込まれる著作権等のリスクを説明するとともに、受講者とその対応を議論します。(共同化、表出化、連結化)	15	
事後学習課題	振り返りシートの作成と事後アンケートの入力(内面化)	10	
参考文献	1. 令和3年度版ガイドライン(運用指針)、特別活動に関する追補版(2021年11月) https://sartras.or.jp/unyoshishin/ 2. 日刊工業新聞・・・関連記事 https://www.kim-lab.info/2020newspaper.html		

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	PDCA修得研修	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	(集合) 講義と演習	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	6月30日(火) 18:15～19:45 ソラティオスクエア4階TNec041教室
		学外公開の有無 <input type="checkbox"/> 学外公開有 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開無
講師	安岡 高志(高等教育研究)	
到達目標	1. PDCAサイクルのPlanが作成できる。 2. ロジックツリーが作成できる。	
事前学習課題	特になし	
講座の流れ		分
セッション1	講義 1. PDCAサイクルについて解説する。 2. ロジックツリーについて解説する。	30
セッション2	グループワーク 3. 各グループで達成目標に対してロジックツリーを完成させる。	50
セッション3	発表 4. 各グループから作成したロジックツリーについて発表する。	10
事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの記入と事後アンケートの入力 ・日常の達成目標に対するロジックツリーを完成させ提出してください(提出は任意)。提出された場合は採点してフィードバックします。 	
参考文献	1. 若松義人、トヨタ式カイゼン入門 基礎からやさしくわかる「人づくりモノづくり」、ダイヤモンド社 2. 桑原晃弥『トヨタのPDCA+F 世界No.1企業だけがやっている究極のサイクルの回し方』大和出版	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	生成AIを使ってみる	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	講義と演習 (対面)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	7月28日(火) 13:00～14:30 8号館TNec812教室
		<input type="checkbox"/> 学外公開有 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開無
講師	宮原 俊之 (教育方法研究支援)	
到達目標	1. 生成AIツールを活用するために必要な基礎的知識について、内容を含めて説明することができる。(3-1に対応) 2. 生成AIツールを授業運営(授業設計、教材作成、授業実施など)において、試しに活用してみようとするようになる。(3-2に対応)	
事前学習課題	1. CopilotまたはChatGPT(無料版でOK)にログインして使えるようにしてください。 *できるだけPCをお持ちください。	
講座の流れ		分
セッション1	①生成AIの基本理解(共有化・連結化フェーズ) ・生成AIについての関心事・不安事について共有します。 ・生成AIとは何か、その仕組みやできること・できないことなどについて概説します。	20
セッション2	②実際に使ってみる(共有化・表出化フェーズ) ・CopilotまたはChatGPTに問いかけをしてみます。 ・プロンプトの工夫で出力がどのように変わるかを確認します。	30
セッション3	③活用を考える(表出化・連結化フェーズ) ・各人の授業運営において、どのような使い方がありそうか、個人で考えます。 10分 ・グループ内で共有し、意見交換を行います。 10分	20
セッション4	④つき合い方考える(表出化・連結化フェーズ) ・グループ内での意見交換における気づきを全体で共有し、どこまで使えるか、どのように使うべきかなどについて考えます。 10分 ・すぐに試してみたいことについてまとめます。 5分 ・質疑応答 5分	20
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。(内面化) ※集合参加の方は研修会場で記入できます。 事後アンケートは、研修当日を含めた3日以内にご回答ください。 2. 講座での学びを活かし教材の見直しを行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)。	
参考文献	随時更新します。	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	ティーチング・ポートフォリオ(発展編)	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	(集合) 講義と演習	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	9月16日(水) 18:15～19:45 ソラティオスクエア3階CTL研修室
		<input type="checkbox"/> 学外公開有 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開無
講師	上田 勇仁(高等教育研究)	
到達目標	1. 教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。(5-1-2対応)	
事前学習課題	1. ご自身のパソコンを持参下さい。 2. 自身がこれまでに作成したティーチング・ポートフォリオをデータで提示できるよう準備して下さい。 ※経験者向けですのでポートフォリオに関する基礎的な解説等はありません。	
講座の流れ		分
セッション1	①自己紹介(共同化) ②ティーチング・ポートフォリオの全体構成(共同化) ・「教育の責任」「教育理念」「教育の実践」「今後の目標」「根拠資料」など、ティーチング・ポートフォリオの一般的な構成や一貫性のある記述などについて概説します。	30
セッション2	③自身のポートフォリオの全体構成を考える(表出化、連結化) ・ワークシートを使い、自身のポートフォリオの全体構成を考えます。 ・ポートフォリオに記述する授業実践例や必要な根拠資料の抽出と整理を行います。	30
セッション3	④ポートフォリオ構成案の共有(連結化・内面化) ・自身の構成案と根拠資料等の選択について、小グループで意見交換を行います。(振り返りシートへの記入) ・1～2例を発表してもらい、講師よりコメントを行います。 ・事後アンケートの記入	30
事後学習課題	作成したティーチング・ポートフォリオは次回の更新のために保存しておきましょう。	
参考文献	1. ピーター・セルディン著、栗田佳代子ほか監訳『大学教育を変える教育業績記録 ティーチング・ポートフォリオ作成の手引』、玉川大学出版部、2007年 2. ピーター・セルディン、エリザベス・ミラー著、川口昭彦、栗田佳代子ほか翻訳『アカデミック・ポートフォリオ』、玉川大学出版部、2009年 3. 土持ゲーリー法一『ポートフォリオが日本の大学を変える～ティーチング/ラーニング/アカデミック・ポートフォリオの活用』、東信堂、2011	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	生成AIをどう授業で使うかを考える	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	(集合) 講義と演習	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	9月25日(金) 14:45～16:15 8号館TNec812教室
		<input type="checkbox"/> 学外公開有 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開無
講師	宮原 俊之(教育方法研究支援)	
到達目標	生成AIに関する他者の実践や課題を踏まえ、自らの授業における活用可能性とリスクを整理し、適切な活用方針を説明するとともに、具体的な授業改善アクションを計画できる。	
事前学習課題	1. 本研修では、生成AIの活用について意見交換を行います。ご参加にあたり、以下について軽く思い浮かべておいてください(書き出し不要です)。 <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIについて気になっていること ・授業で「使えそう」「不安」と感じた場面 2. 簡単な事前アンケート(1問)にご協力ください。	
講座の流れ	分	
形式	座談会形式で実施しますが、人数が多い場合は複数のグループに分かれます。	
セッション1	①現在の状況を共有する(共有化・連結化フェーズ) ・生成AIについての関心事・不安事・課題だと考えていることについて共有します。 ・現在、授業において(すべてのプロセスが対象)生成AIを活用している場合は、その内容も共有します。	30
セッション2	②活用を考える(表出化・連結化フェーズ) ・他者の現状を受けて、各人の授業において(すべてのプロセスが対象)、どのような使い方がありそうか、個人で考えます。 15分 ・小グループ内(もしくはお隣の方)で共有し、意見交換を行います。 10分	25
セッション3	③つき合い方を考える(表出化・連結化フェーズ) ・気づきを全体で共有し、どこまで使えるか、どのように使うべきかなどについて考えます。 25分 ・すぐに試してみたいことについて、個人でまとめます。 5分 ・質疑応答 5分	35
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。(内面化) ※事後アンケートは、研修当日を含めた3日以内にご回答ください。 2. 講座での学びを活かし授業設計について見直し行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)。	
参考文献	随時更新します。	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	データによる授業改善のすすめ:大学における教育の質保証とIR	
【領域】	2. 授業のデザイン(目標設定、実施計画、成績評価)	
形式	講義と演習 (Zoom)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input type="checkbox"/> 集合 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	9月28日(月) 18:15~19:45(接続は18:10)
		学外公開の有無
		<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	木村 治生(教学IR)	
到達目標	1. 大学における教育の質保証の考え方と教学IRの役割を理解し、授業改善にデータやエビデンスを活用する意義と留意点を説明できる。(2-1、4-1に対応) 2. 自らが担当する授業について、活用可能な量的・質的データ、直接・間接のエビデンスを整理し、それらをどのように解釈して授業改善につなげるかを検討できる。(4-1、5-2に対応)	
事前学習課題	担当している授業を1つ選び、その授業の到達目標、授業方法、成績評価の方法、および授業改善に活用できるデータやエビデンス(例:授業アンケート、小テスト、提出物、出席状況、学生のふりかえり等)について、現在把握している内容を整理しておく。	
講座の流れ		分
セッション1	1. 大学における教育の質保証と教学IRの役割 大学における教育の質保証の考え方を踏まえながら、教学IRが果たす役割と、授業改善をデータやエビデンスに基づいて進める意義について理解する。	20
セッション2	2. 今あるデータをどう授業改善に活かすか 授業改善に活用できるデータやエビデンスの種類を整理し、現在取得しているデータによって何が把握でき、何が把握しきれていないのかを検討する。あわせて、授業改善を図るうえでの検証の限界について考える。	25
セッション3	3. ワーク:授業でエンゲージメントをどう測るかを考える 各自の担当授業を1つ取り上げ、学生エンゲージメントを把握するための方法を検討する。とくに、入手可能なデータでどのような形で測定を行えば、授業改善の検証につながるかを考える。	25
セッション4	4. 共有と意見交換:授業改善のPDCAを構想する 各自が検討した内容を共有し、データの活用方法や解釈、改善の方向性について意見交換を行うことで、自らの授業改善のPDCAを具体化する。	20
事後学習課題	本講座での学びを踏まえ、担当している授業(または今後担当予定の授業)を1つ取り上げ、①授業改善のために活用するデータやエビデンス、②把握したい学習成果や学生エンゲージメント、③その測定方法、④結果をどのように解釈してどのような改善につなげるかの4点について整理する。	
参考文献	中央教育審議会大学分科会(2020)「教学マネジメント指針」 東北大学高等教育開発推進センター編(2010)『学生による授業評価の現在』東北大学出版会。 松下佳代(2017)「学習成果とその可視化」『高等教育研究』第20集, 93-112。 三宅将史(2025)「授業アンケートにおける授業満足度の要因分析」『大学評価とIR』第19巻, 15-25。	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	大学生の思考を促すリフレクション入門	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	集合	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	10月5日(月) 18:15~19:45 場所:ソラティオスクエア4階TNec041教室
		学外公開の有無
		<input type="checkbox"/> 学外公開有 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開無
講師	上田 勇仁(高等教育研究)	
到達目標	1. 大学生の思考を促すリフレクションを実施するための理論的な枠組みを説明することができる 2. 授業や学士課程教育における教育目標を参照し、リフレクションの方針を記述することができる 3. リフレクションの方針に則して、リフレクションを促すためのプロセスや問いを記述することができる	
事前学習課題		
講座の流れ		分
セッション1	1. リフレクションの理論と実践 ・経験学習モデル:コルブの経験学習サイクルの解説 ・リフレクティブラーナーの定義:経験を通じて学ぶ学生像の共有	25
セッション2	2. リフレクション指針の策定とルーブリックの作成 ・経験学習における「壁」:リフレクションが深まらない要因と課題の整理 ・ルーブリック評価表の導入:評価の観点、尺度、基準をデザインする	35
セッション3	3. 大学生の思考を促すリフレクションのプロセスと問いの検討 ・リフレクションを実施する際のプロセスや問いの指針 ・研修を通じて生成した成果物の共有・発表	30
事後学習課題	振り返りシートの作成と事後アンケートの入力(内面化)	
参考文献	1. ドナルド・A・ショーン(2007)『省察的实践とは何かープロフェッショナルの行為と思考』鳳書房 2. Kolb, D. A. (2014) <i>Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development</i> Pearson FT Press 3. 松尾睦(2011)『職場が生きる 人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	インストラクショナルデザインに基づく授業設計の確認と教材チェック(基礎編)		
【領域】	2. 授業のデザイン(目標設定、実施計画、成績評価)		
形式	講義と演習(対面/Zoom)		
時間	120分		
	実施形態	開催日時	学外公開の有無
	<input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> ハイフレックス(学外から参加の方がオンラインを希望される場合は、別途ご連絡が必要です)	10月26日(月) 16:30~18:30(接続は16:25) 8号館TNec812教室	<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	宮原 俊之(教育方法研究支援)		
到達目標	1. 「インストラクショナルデザイン」とは何かを説明できる。(2-1に対応) 2. インストラクショナルデザインの視点(講座で取り扱った内容:本学DPもその一つ)から、自らの授業設計の特徴についてチェックできる。(2-2に対応)		
事前学習課題	1. 現在授業で使用している教材を持参して下さい(1回~2回分程度)。オンライン授業も含まれます。		
講座の流れ		分	
セッション1 (対面/Zoom)	* オンライン参加の方は16:25にZoomに接続してください。 ①授業設計の全体像を知る(共有化フェーズ) ・ インストラクショナルデザインを通して、授業設計の全体像について概説します。	20	
セッション2 (対面/Zoom)	②システムの授業設計・開発の手順を知る(共有化フェーズ) ・ システム的な授業設計・開発の全体的な手順を紹介した上で、特に、授業の組み立て[ガニエの9教授事象]、動機づけ[ARCSモデル]、授業・教材の評価[形成的評価]について、取り上げます。	35	
セッション3 (対面/Zoom)	③授業設計理論を理解するためのワーク(表出化・連結化フェーズ) ・ セッション2で取り上げた理論に関するワークを行います(個人作業)。25分 ・ グループ内で、ワークからの気づきも含めて自分の授業設計における特徴について説明し、意見交換を行います。20分	45	
セッション4 (対面/Zoom)	④全体での共有(表出化・連結化フェーズ) ・ グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。15分 ・ 質疑応答 5分	20	
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。(内面化) ※集合参加の方は研修会場で記入できます。オンラインで参加されている方は、接続切断後に各自でご記入ください。事後アンケートは、研修当日を含めた3日以内にご回答ください。 2. 講座での学びを活かし教材の見直しを行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)。		
参考文献	1. R. Mガニエ・W. Wウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳『インストラクショナルデザインの原理』、北大路書房(2007) 2. C.M.ライゲルース、A.A.カー=シェルマン著・編集、鈴木克明、林雄介監修・編集『インストラクショナルデザインの理論とモデル: 共通知識基盤の構築に向けて』、北大路書房(2016) 3. J. M. ケラー著、鈴木克明監訳『学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房(2010)		

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	初年次ライティング指導の理論と方法	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	講義・ディスカッション(Zoom)、演習(事前学習課題)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input type="checkbox"/> 集合 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	10月27日(火) 16:30～18:00(接続は16:25)
		学外公開の有無
		<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	山下 由美子(文章表現教育)	
到達目標	1. 初年次ライティングを取り巻く背景や現状についての基礎知識がある。(3-1-1対応) 2. 学生の学習を促す授業の準備、授業運営を行う。(3-2-2対応)	
事前学習課題	1. 事前学習資料の2つのレポートは、初年次学生が書いたものです。それぞれのレポートを読み比べてみてください。 2. それぞれのレポートの良い点・悪い点を見つけ、その理由を考えてきてください。 3. 学生のレポートや文章に関して、特に問題を感じるがあれば考えておいてください。 4. 学生の文章力向上のための工夫や取り組みがあれば、グループディスカッションで簡単に紹介できるように準備しておいてください。	
講座の流れ		分
セッション1	*16:25にZoomに接続してください。 【全体活動】 ①初年次ライティング科目を取り巻く現状(共同化) ・初年次ライティング科目設置の動向を概観し、本学の取り組みを含め、講義形式で解説します。	20
セッション2	【グループ活動】 ※始めに、グループ内で簡単に自己紹介を行います。(1分) ②2つのレポート例の比較およびレポート評価についての意見交換(共同化・表出化)(12分) ・事前課題の2つのレポートの違いについて、グループで情報共有をします。 ・よいレポートとダメなレポートをどう判断しているか、すべきかについて意見交換を行います。 ③「学生のレポートや文章から感じる問題点」「学生の文章力向上のための工夫や取り組み」についての紹介(共同化・表出化)(12分) ・これまで見てきた学生のレポートや文章から感じる問題点、ご自身の授業などでの工夫や取り組みについてグループ共有をします。 →②③で共有された話や意見は、次のセッションで全体共有をします。	25
セッション3	【全体活動】 ④全体共有(表出化・共同化) ・セッション2で意見交換した内容をグループごとに発表し、全体共有をします。	10
セッション4	⑤補足説明と「eラーニングで学ぶ文章作法入門」紹介(共同化・連結化) ・まとめとして補足説明をします。 ・初年次向け科目「eラーニングで学ぶ文章作法入門」の授業概要を通して、授業で身に付けられる文章力を紹介します。	25
事後学習課題	【個人活動】 接続切断後各自でご記入ください。 ・振り返りシートの作成と事後アンケートの記入(表出化・内面化) ・研修を終えて、ご自身が学生の文章で最も重視したい点やそのための指示の仕方を分析することで、学生に書かせたいレポートイメージを明確化します。	10
参考文献	1. 関西地区FD連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター(編集)『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』(ミネルヴァ書房、2013年) 2. 仲道雅輝・山下由美子・湯川治敏・小松川浩『大学初年次における日本語教育の実践: 大学における学習支援への挑戦3』(ナカニシヤ出版、2018年) 3. 成瀬尚志『学生を思考にいざなうレポート課題』(ひつじ書房、2016年) 4. 文部科学省「平成28年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」 (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2019/05/28/1417336_001.pdf)	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	インストラクショナルデザインに基づく授業設計の確認と教材チェック(実践編)	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	講義と演習(対面/Zoom)	
時間	120分	
	実施形態	開催日時
	<input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> ハイフレックス(学外から参加の方がオンラインを希望される場合は、別途ご連絡が必要です)	11月9日(月) 16:30~18:30(接続は16:25) 8号館TNec812教室
		学外公開の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	宮原 俊之(教育方法研究支援)	
到達目標	1. インストラクショナルデザインの視点(講座で取り扱った内容:本学DPもその一つ)から教材をチェックした結果をまとめることができる。(3-1および3-2に対応) 2. 「1.」でまとめた結果から、実際の授業の改善を行うことができる。(3-1および3-2に対応)	
事前学習課題	1. 現在授業で使用している教材(内容を見直したいと思っているものがあればその教材)を持参して下さい(1回~2回分程度)。オンライン授業も含まれます。 2. 内容を見直したい教材の場合は、どうして見直したいのかをまとめておきましょう。	
講座の流れ		分
セッション1 (対面/Zoom)	*オンライン参加の方は16:25にZoomに接続してください。 ①授業設計の全体像と体系的な授業設計・開発の手順を確認する(共有化フェーズ) ・基礎編で取り上げた内容(インストラクショナルデザインを通しての授業設計の全体像、授業の組み立て[ガニエの9教授事象]、動機づけ[ARCSモデル]、授業・教材の評価[形成的評価]など)について確認します。 ②授業改善の手順を確認する(共有化フェーズ) ・実際のチェックを行う前に、授業改善の手順について概説します。	20
セッション2 (対面/Zoom)	③教材チェックのワーク(表出化・連結化フェーズ) ・各自、持参した教材の1回分を選び、基礎編やセッション1での学びを利用しチェックします(個人作業)。20分 ・グループ内で各自のチェック内容について説明し、意見交換を行います。15分 ※このセットを違うチェックシートを使って2回行います(35分*2回)。	70
セッション3 (対面/Zoom)	④全体での共有(表出化・連結化フェーズ) ・グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。20分 ・質疑応答 10分	30
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。(内面化) ※集合参加の方は研修会場で記入できます。オンラインで参加されている方は、接続切断後に各自でご記入ください。事後アンケートは、研修当日を含めた3日以内にご回答ください。 2. 講座での学びを活かし教材の見直しを行った場合は、その内容(チェックした点、改訂した点など)をまとめてください(研修総括レポートに記述するのがよいでしょう)。	
参考文献	1. R. Mガニエ・W. Wウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳『インストラクショナルデザインの原理』、北大路書房(2007) 2. C.M.ライゲルース、A.A.カー=シエルマン著・編集、鈴木克明、林雄介監修・編集『インストラクショナルデザインの理論とモデル: 共通知識基盤の構築に向けて』、北大路書房(2016) 3. J. M. ケラー著、鈴木克明監訳『学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房(2010)	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	ルーブリックについて知る(未経験者向け)	
【領域】	5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	
形式	講義と演習(対面)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	11月30日(月) 16:30~18:00 ソラティオスクエア3階CTL研修室
		<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	安部 健太(教育方法研究支援)	
到達目標	1.多様な評価の方法とその特徴について理解できる(4-1-3対応) 2.学習目標に合わせて、成績評価の基準と方法、成績評価のフィードバック等を適切にデザインできる。(4-2-1対応)	
事前学習課題	・ルーブリックを活用したいと考えている授業のシラバス1~2件を持参してください。 ・これまでに自身で作成したルーブリックがあれば持参してください。 ＊その他の事前課題については、実施前に連絡します。	
講座の流れ		分
セッション1	①ルーブリック使用経験の情報共有(共同化) ・自身がこれまでに行った、ルーブリックを活用した取り組みについて情報共有を行います。	10
セッション2	②ルーブリックの基本と活用例(共同化) ・ルーブリックについての基本情報と活用例について概説します。	30
セッション3	③ルーブリック作成のミニワーク(表出化) ・自身の授業で用いるルーブリックを作成します。	25
セッション4	④グループディスカッション(連結化) ・作成したルーブリックについて意見交換を行います。	20
事後学習課題	・振り返りシートの作成と事後アンケートの入力(内面化) ・研修の内容をもとに、今後の授業におけるルーブリックの活用について検討してみてください。	5
参考文献	1. ダネル・スティーブンス, アントニア・レビ(佐藤浩章監訳, 井上敏憲, 俣野秀典訳) 2014『大学教員のためのルーブリック評価入門』, 玉川大学出版部. 2. 沖裕貴 2014 大学におけるルーブリック評価導入の実際—公平で客観的かつ厳格な成績評価を指して—, 『立命館高等教育研究』14, 71-90. 3. スー・F・ヤング, ロバート・J・ウィルソン(土持ゲーリー法一監訳, 小野恵子訳) 2013『「主体的学び」につなげる評価と学習方法—カナダで実践されるICEモデル』, 東信堂.	

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	教授・学修活動の高度化に向けて～SoTL(教育研究)に取り組んでみよう		
【領域】	1. 大学コミュニティについての理解 5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発		
形式	講義と演習		
時間	90分		
	実施形態	開催日時	学外公開の有無
	<input type="checkbox"/> 集合 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	12月7日(月) 18:15～19:45(接続は18:10)	<input checked="" type="checkbox"/> 学外公開有 <input type="checkbox"/> 学外公開無
講師	蔡薰婕(文章表現教育)		
到達目標	1. 学生や教育プログラムの実態、社会の状況、自らの教育活動を統合的に振り返り、改善しようとする。(5-2-1対応) 2. 大学のDP(自分流の達成)や教育理念(実学・開放性・国際性)に基づいた、組織的な教育開発に、同僚と共同して参画しようとする。(5-2-3対応)		
事前学習課題	1. 授業での悩み事、チャレンジしたいこと、改善したいことなどをまとめてきてください。 2. 特に改善したい授業のシラバスを持ってきてください。		
講座の流れ		分	
セッション1	①講師より、SoTLに関する解説をします。(共同化、15分) ・ SoTLに取り組む意義や、プロセス等について概説します。 ②自己紹介、および事前課題をもとに授業や学生の学習に関する自身の関心や問題点を発表する(共同化・表出化、20分) ・ 教育研究をスタートする前に、自身が「何に関心があるのか」「何が問題だと思っているか」を明確にします。	35	
セッション2	③SoTL実践事例の紹介(共同化、15分) ・ 研究手法やデータの取得方法なども含めた取組事例を紹介します。 ④SoTL研究計画のデザイン(表出化・連結化、30分) ・ 改善したい授業を1つ取り上げて、SoTL研究の計画書を作ってみるワークを行ないます。 ・ グループ内で共有し、意見交換を行います。	45	
セッション3	⑤SoTLプロジェクトの申請について(連結化、10分) ・ 本学におけるSoTLプロジェクトの募集概要およびCTLコミュニティへの参加について説明します。 ・ 振り返りシートと事後アンケートの記入(内面化)	10	
事後学習課題	設定した研究課題について、ぜひ実際に取り組んでみましょう。(内面化)		
参考文献	1. 帝京大学高等教育開発センター SoTLプロジェクト https://ctl.teikyo.jp/fd/sotl/ 2. ISSoTL (International Society for the Scholarship of Teaching and Learning) ホームページ https://issotl.com/about-issotl/ 3. Huston, Therese. Teaching What You Don't Know. Harvard University Press, 2009. 4. Camtree https://www.camtree.org/home		

2026年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

講座名	ICTを効果的に活用した授業設計	
【領域】	3. 教育の実践	
形式	講義と演習 (対面)	
時間	90分	
	実施形態	開催日時
	<input checked="" type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> ハイフレックス	12月21日(月) 16:30~18:00 8号館TNec812教室
		学外公開の有無 <input type="checkbox"/> 学外公開有 <input checked="" type="checkbox"/> 学外公開無
講師	安部 健太(教育方法研究支援)	
到達目標	1. ICT活用の目的や授業での効果的な活用場面について説明できる(3-1対応) 2. ICT環境において本学のDPを踏まえた「学生が主体的に学ぶ授業」の準備を行うことができる(3-2対応)	
事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業を検討している1科目をピックアップしてください(特定の授業回でも構いません)。 ピックアップした科目や授業回について、どのように見直したいのか、どのようなアイデアがあるのか、考えてみてください。 *その他の事前課題については、実施前に連絡します。	
講座の流れ		分
セッション1	①ICT活用の必要性について概説(共同化) ・ICT活用を採用する前に考えなければいけない事柄は何かという授業の基本枠組みについて概説します。	25
セッション2	②TNecの概説(共同化) ・TNecの特徴を概説します。また、機能ごとの効果的な活用場面について概説します。	30
セッション3	③参加者間で利用想定を紹介と機器操作(表出化・連結化) ・実践方法を中心に参加者間で紹介し、TNecでの実践を検討します。	30
事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。 	5
備考	<ul style="list-style-type: none"> 対面での実施を予定しております。ご注意ください。 TNecの機器の操作方法の修得を主として行うものではありません。 	
参考文献	1. デンプシー, J. V. 鈴木克明・合田美子(監訳)(2013). インストラクショナルデザインとテクノロジー:教える技術の動向と課題. 北大路書房.	